

和光会会報No. 56

－菱電サービス（菱サ）～三菱電機ビルテクノサービス（MELTEC）本社OB会－

◆ 羽黒岩伝説と遠野幻想 …… (2018-12) —山本拓弘さんから投稿頂きました—

東北を巡る旅では、遠野を外すことはできない。何故なら遠野には昔のこの地方の暮らしの思い出がいっぱい詰まった話や場所がたくさん残っているからである。遠野を旅した人なら、「とおの物語の館」に立ち寄って、地元のおばあちゃんが語ってくれる昔話、そう、「昔、あったずもな、」で始まり、「……どんどはれえ」で終わる、遠野弁での解りにくいけど、何となく土地の温もりの伝わってくる話を聴かれたことがあるのではないかな。遠野は民話がいっぱい生まれ、育ち、そして残っている土地であり、そのことは柳田国男の遠野物語にも数多く書き留められている。

今年（2017年）の東北春旅の中で、遠野を訪れたのは4月下旬だった。その日は夜明け近くまで雨が降り続き、日中の天気回復も期待できそうもないので、予定していた荒川高原牧場（国指定重要文化的景観）に行くのを諦めたのだが、朝方になって雨がやんだので、一寸付近を歩こうと出掛けたのだった。泊っている道の駅：遠野風の丘は、国道283号線沿いにあり、どうやらこの道は新しく造られたようで、下を走るJR線の近くに旧道らしき道があるので、それを市街地とは反対の方向へ歩いてゆくことにした。

初めての道であり、東西南北も見当がつかない。北国や日本海側を旅すると、時々東西南北の感覚が180度狂うことがある。特に南北の感覚が狂うことが多いのは、自分の育った土地では北の方に山があったのに、この地では南の方に大きな山があるという風な場所である。又東西の感覚が狂うのは、育った土地では海は東側にあるのに、日本海側では西になってしまうからである。人は生まれ育った環境によって、方向の感覚が随分と違うものなのである。磁石がないとTVのアンテナ設定も覚束無いことを何度も経験している。

国道よりは少し道幅の狭いその旧道らしい道を歩いて行くと、直ぐに妙な物が道端に建っているのに気づいた。近くに行ってみると、何と大きな下駄だった。それは石で出来ていて、紅白の巨大な鼻緒が挿（す）げられていた。なんだろうと、案内の標識を見たら「遠野遺産第78号 羽黒堂と羽黒岩」とあり、傍に羽黒岩についての伝説の説明が書かれていた。また、もう一つの石には「湯殿山」と刻まれていた。直ぐ傍には朱色の鳥居が建っており、それらを見て、これは出羽三山に絡む修験道信仰に関係がある場所なのかなと思った。

道の駅から歩き出してまだ10分ほどの

のに、これは面白いものに出会ったと、俄然興味が湧き、その羽黒岩というのを見に行こうと決めた。参道とも思えない農道のような細い道を辿って歩きを開始した。間もなく道は森の中に入り、もう直ぐかなと緩い傾斜道を軽い気持ちで歩いていたのだが、300mも行った辺りから登りが次第に厳しさを増し、息が上がりに出したのには参った。その羽黒岩というのがなかなか見えないのである。ハアハア言いながら登って行くと、神社と思われる粗末な建物が見えて来た。その傍に巨石があったので、これが羽黒岩だなと直ぐに判った。神社の掲額には「出羽神社」とあった。やはり出羽の修験道の山伏などに関係のあるものだなと思った。遠野のこの辺りにも山伏が布教のために訪れていたであろう。



道の駅：遠野風の丘下の旧道を遠野の中心街の反対側に少し歩いた所にある羽黒岩伝説の案内標

その羽黒岩は、二つに分かれており、高い方は9mほどであろうか。てっぺんの方が少し欠けているのが、天狗に蹴飛ばされたという箇所なのであろう。近くに矢立松というのがある筈だが、それは見えなかった。松の代わりに何本かの杉の木が立っていたが、皆若いものばかりで、伝説の松の樹に変わるほどの貫禄はなかった。少し拍子抜けがしたが、恐らく松の樹は伐られたか枯れてしまったのだらうと思った。何年前に生まれた伝説なのか見当もつかないけど、植物がそのままの姿で今まで残ることはないのだから、これは仕方がない。それにしてもこれほどの巨石を蹴飛ばして頭を欠かせるというのだから、天狗というのは物凄いパワーの持ち主なのだなと思った。そこに出羽三山信仰の秘めた力のようなものを感じた。



羽黒岩を祀る出羽神社。霧が立ち込めた山中に素朴な社殿が鎮座していた。



羽黒岩。天狗の下駄で蹴飛ばされて欠けたという岩は、二つに割れていた。これは地中では繋がっているのかもしれないと思った

いやあ、早朝からいきなりいいものを訪ねることが出来て、ラッキーだった。真に偶然であり、このような伝説があることもこの場所も全く知らない初めての来訪だったのである。説明板に「遠野物語拾遺」に収められているとあったので、旅から戻ったら調べなければならぬと思った。遠野物語は読んでいるけど、その拾遺というのは読んだことがない。楽しみが一つ増えたと喜びながら住まいの車に戻った。

さて、旅から戻って、早速「遠野物語拾遺」を買って来て調べてみた。その全文は、以下の通りである。

「綾織村字山口の羽黒様では今あるとがり岩という大岩と、矢立松という松の木とが、おがり（成長）競べをしたという伝説がある。

岩の方は頭が少し欠けているが、これは天狗

が石の分際として、樹木と丈競べをするなどはけしからぬことだと言って、下駄で蹴欠いた跡だといっている。一説には石はおがり負けしてくやしがって、ごせを焼いて（怒って）自分で二つに裂けたともいうそう。松の名を矢立松というわけは、昔田村将軍がこの樹に矢を射立てたからだという話だが、先年山師の手にかかって伐倒された時に、八十本ばかりの鉄矢の根がその幹から出た。今でもその鏃は光明寺に保存されている。」

（遠野物語拾遺 題目：石 番号十 柳田国男）

これを読んで、首肯すること大だった。矢立松が無かったことも判明した。先年というのが何時のことなのか判らないけど、伐り倒されてしまったのだから在るわけがない。また、石には二つに裂けただけではなく、更にひび割れしている箇所も見られたので、天狗説よりも石自身がくやしがって裂けたという説の方が面白いと思った。矢立松の由来に坂上田村麻呂が登場するのも面白いし、更にはこの将軍が射た矢の鏃（やじり）が現在も光明寺に保存されているというのも面白い。今回は気づけなかったもので、光明寺に寄

ることはなかったけど、今度行った時はお寺を訪ねてその鎌のこと訊いてみたいと思った。

遠野の伝説はそのほとんどが空想なのだろうけど、それらの話には現地、現物が存在しているのが面白い。伝説の生まれたその現地を訪ねることが出来るのである。この羽黒岩の他にもデンドラ野（蓮台野）やダンノハナ、それにカッパ淵など数多くその現地がある。

その昔（といっても僅かに100年ほど前までのことなのだが）、東北地方の長い冬の、閉鎖された空間の中での暮らしの中で、そこに住む人々は、何か目立った特徴のあるものや出来事に対して、様々な空想を思い描いたに違いない。伝説の多くは、恐らく冬の間に生まれたのではないかと思った。深深と雪の降り積もる、音一つ聞こえぬ世界の中で、耳を澄ませ目を閉じれば、出来事にまつわる様々な思いが膨らみ、そこに一つの物語が生まれてくるのを止めることができないのであろうか。それほどに東北の冬という季節は、寂しく厳しいものだったのだと思う。そしてその分だけ、心の世界は豊かに活動するのではないか。もしかしたら、その創作者の多くは老爺・老婆だったのではないか。自分の経験や親などからの話を孫に語って聞かせ、それが代々伝わって来ていて、その内いつの間にか空想ではなく現実の世界に定着してしまった、などということもあったのかもしれない。遠野の昔話は、今日のような騒々しく、暗闇の夜を忘れた、明るくて情報の入り乱れる世界に住んでいる者には、なかなか味わえない話なのだと思う。

現代に生きる人びとは、科学の力を頼んでの利便性を享受していることに甘えて、200年前の人たちよりも自分たちの方がはるかに優れているなどと錯覚してはいはしないか。よく考えれば、優れているのは、科学を頼んだ利便性だけであって、人間としての心の持つ力は、それほど豊かになっているとは思えないのである。むしろ、あまりにも効率や利便性などを追いかけるのに気を奪われてしまって、心をすり減らしているのではないか。現代の科学の進展をまるで自分の手柄のように錯覚して思い上がるのは、これは実はとてつもなく危険なことではないのか。羽黒岩の伝説に絡んであれこれと思いを巡らしている内に、ふと、そのようなことに思い至ったのだった。

◆ 会員の趣味のコーナー

先回より第16回和光会総会の展示作品をご紹介しますが、今回も引き続き3名の方の作品をご紹介します。

今回もこれらを始めた時期（年数）・動機、作品を制作しての喜び（感動）、苦労したこと、「他に取り組んでいる趣味」などを含めて紹介いたします。

なお、出展出来なかった方の作品・趣味についても出来るだけ順次ご紹介をしていく予定です。

◆ 日本画 ……（2018-06）—布施 昌義さんから投稿頂きました—

①「古刹と杉林」（日本画F8号）



以前に、福井県にある白山平泉寺の参道を描きましたが、今回は同じ寺の古刹を描きました。本来は杉林の中で薄暗い状況ですが、絵が暗くなるので、日の光が差し込む絵にして明るくするようにしました。緑色系が多くなりましたが、今少し色の変化を多く入れて、メリハリのあるようにすべきであったと感じています。

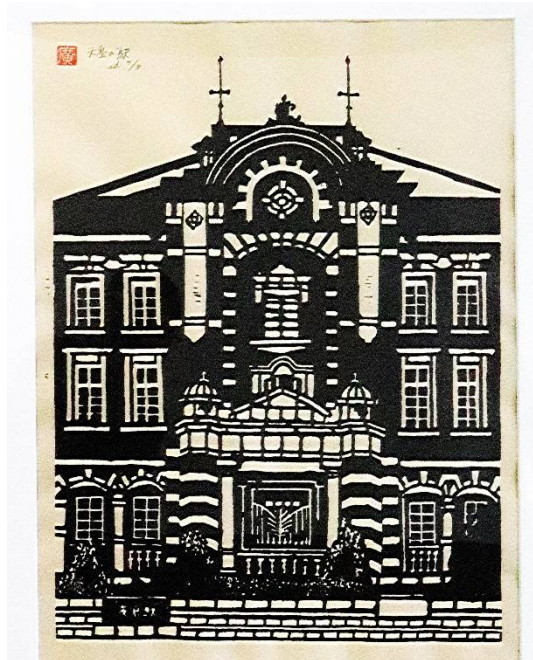
②「湖水に森写る」



北海道にある湖に森林の木々が写る状況を描きたかったのですが平凡に見える絵になったような気がしています。私が所属している絵画クラブの仲間からは絵の動きがすくないので湖の波に変化を（風で白波がたっている等の）付けたらどうかといわれましたが難しいのでそのままにしました。

◆ 木版画

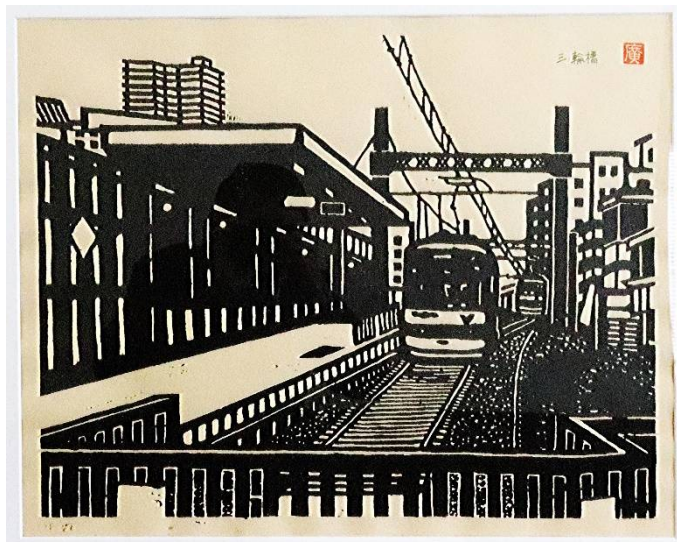
①「天皇の駅」



東京駅の真ん中にある皇室専用出入り口、通称”天皇の駅”は行幸通りを通して皇居の正面に位置し天皇の威光が東京駅から日本各地に広まっていくことを象徴しているそうです。東京駅全体の絵はKITTE JPタワー（前の中央郵便局）屋上から見て何回かチャレンジしましたがスケールが大きすぎて私の力量ではかなり難しい。今回思い切って”天皇の駅”に絞って描いてみた。設計者辰野金吾の細部にわたるすばらしさを東京駅に足を運んで味わって貰いたいと思います。

…… (2018-06) —鈴木 廣行さんから投稿頂きました—

②「三ノ輪橋」



町屋の真ん中、都電の走る姿は誰もが頭にしみ込んでいることと思います。三ノ輪橋は唯一残っている都電の終着駅（停留場）です。ホームや近くベンチには私と同年輩のお年寄りがのんびり腰かけてゆったりした時間を過ごしている。町の雰囲気も含めて良き昭和の下町にタイムトリップした感じがする。昭和の時代に生まれ元気に生きてこられて良かったと実感するひと時である。

出展作品について 今回は（東京駅の）”天皇の駅”と“三ノ輪橋”2作品出させていただきます。誰もが馴染んだ風景ですが誰もが立ちどまってよく見ると何かぐっとくる風景です。

◆ エレベーター模型

..... (2018-06) —河原 利昭さんから投稿頂きました—

①「世界最小エレベーター精密模型」



世界最小エレベーター精密模型

工務 千利 河原 利昭

<http://kobosenri.jimdo.com/>

PicEL45
ビッケレ45

寸法
・D:160mm
・W:150mm
・H:460mm

乗り場
・方向灯
・位置表示
・呼び押し釦

カゴ内・カゴ上操作盤
・AUTO・HAND・DOOR
・UDOT-OFF・UDL-OFF
・BODY-RC
・ポータブルSWコネクタ

かご室内
・方向灯・位置表示
・行先押し釦・開・閉釦

リモコン

かご行先釦

電源表示灯

特殊釦

かごが他の階の位置
を検知しながら2階UP呼びで
目的地まで運行を行う

乗り場
呼び釦

寸法
・D:28.4mm
・W:66.5mm
・H:92.0mm

GL巻上機(デバック中)



平成 25 年 6 月 15 日 (第 11 回総会) 出展「動く昇降機模型」でやり残したこと (・かご内照明 点灯—消灯・診断運転) を実現したかった。

同時に、乗り場ドア SW、かごドア SW が無いことを指摘され、実現したかったことと合わせて検討開始。

- ・カゴ内照明 点灯—消灯
- ・乗り場ドア SW、かごドア SW
- ・ドア開閉状態の診断運転
- ・地震・火災管制運転、HW のみ用意することにした)

最大の難関は制御ケーブルである。

- ・4 芯以上のケーブルでは自由吊り (R) アールが確保できない
- ・4 芯ケーブルにすると電源用 2 芯 信号用 2 芯で実現させる必要がある

※ かご上 CPU → 制御 CPU (4 信号)

i, 着床位置検出用 3 点 (FUL・DZ・FDL)

ii, かご扉閉検出用 1 点

※ 制御 CPU → カゴ上 CPU (3 信号)

i, 扉開・閉指令

ii, 照明点灯・消灯指令

iii, 扉開閉速度指令（通常運転・扉診断運転）

* 伝送方法には各種シリアル伝送があるがケーブル長 800 mm程度になることを考慮すると、シリアル伝送ではノイズ対策に不安があり、4ビットD/A変換・3ビットD/A変換方式を採用することにした。

* これらを考慮しH/W S/Wの試作、試験を繰り返し実現可能である確認できた時には、なんかホットしたことを思い出しました。

次の目標

駆動装置に「ミニモーター低速ギヤボックス（4速）」を使用しているが小型モーターが非力な為、運転開始して数回の走行は着床がもたつく傾向がある。このもたつき解消に着床補正ソフトを組み込み、着床ゾーンから着床の時間を計測し長くなれば着床速度をUPし短くなればDNするソフトを組み込んでいる。

* 根本的にこの問題を解消することを目指し課題を洗い出し中

i 駆動用モーターの選定

市販品で入手可能な20mm角PMモーター（ステップモーター）の採用を検討

ii PMモーター駆動用H/W・S/W検討

超低速から高速回転まで滑らかな速度制御（10HZ～1400HZ）

iii S/W開発量の増大に伴い、高性能PIC採用が必要

開発言語「アセンブラ言語」→「C言語」をものにすべくトライ中

* 現時点での試作中モーター制御デモを展示

◆ 事務局より

- 和光会会報No.34より「くるま旅くらし心得帖」の山本拓弘氏よりくるま旅について投稿いただいておりますが、今回は2017年春の東北の旅から羽黒岩伝説について投稿いただきました。
なお、山本拓弘氏の「くるま旅くらし」の最近の様子は下記ブログに載っておりますので是非ご覧ください。

<http://blog.goo.ne.jp/vacotsu8855>

「山本馬骨」で検索しても可能です。

- 「会員趣味のコーナー」では第16回和光会総会の展示作品の中から、常連となりました布施昌義さんの日本画、鈴木廣行さんの木版画、それに加え、第13回総会以来の出展となる河原利昭さんのエレベーター模型の3人の方の作品をご紹介させて頂きました。エレベーター模型は実際に押し釦により動かすことができるのですが、動画を掲載することができず動きを見せることができず残念です。
- 和光会の連絡・問い合わせ窓口について
OB会事務作業（会員との連絡・通知、1194・カレンダーの送付等）を人事部の委託によりMTBにお手伝いいただいております、MTBの担当は総務・人事支援部（部長：田辺 直樹）で、連絡・問い合わせ窓口は下記のとおりです。

担当：井手 信彰、佐々木 敏行、大澤 淳子

電話：03-3803-8865（代表）

FAX：03-3803-8875

E-mail：meltec-OB-wakokai@mtb.ssg.meltec.co.jp

住所変更等通常の連絡・問い合わせはMTBの上記和光会担当か、和光会事務局（寺門）で済むと思いますが、会社の人事部の窓口は年金・基金を担当している方で次の通りです。

担当：大嶋 勝則

電話：03-5810-5392（ダイヤルイン）

FAX：03-5810-5501

E-mail：oheki.katsunori@meltec.co.jp

- ・ 2018年度会費納入対象の方は2002、2005、2008、2011、2014及び2016年に入会された方々会報No.54でご連絡し、対象者宛に「1194」「和光会会報」送付時振込用紙を同封いたしましたので、会費「4,000円（2年分）」の振り込みが未だの方は次の口座宛振り込み賜りたくよろしくお願い申し上げます。

なお、振込用紙を紛失された方は事務局あてご連絡くだされば再度送付いたします。

振込先：郵便局

口座番号：00100-7

口座記号：650896

加入者名：和光会

- ・ E-MAIL 会員各位へは INFORMATION をお送りしておりますが、最近不達が増えておりますので、**メールアドレスの変更時は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・ 「和光会会報」・「1194」・カレンダーなどを会員宛送付しておりますが、宛所不在で戻ってくる場合がありますので、**転居・住所表示変更等の場合は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・ パソコンのある方は、会報や総会写真を下記和光会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.geocities.jp/meltec_wakokai_hp/

皆様の日頃の活動やグループ活動などのお便り・投稿をよろしくお願いいたします。

029-872-4122 mitsuotera@jcom.home.ne.jp

2019-1-11 和光会事務局 寺門 三男